



【徐放性不快害虫用処理剤】

プロコート®TP

本品は建築物等の外壁に飛来し、室内に侵入してくるカメムシや、軒下等に巣を張り美観を損なうクモ等の不快害虫用の防除剤です。

本品を処理した面は、有効成分を含んだ透明な被膜を形成します。その形成した被膜中に存在する有効成分は、ピレスロイド系の化合物で長期間効果を持続します。

【特 長】

- ① 不快害虫に対して有効
カメムシ・クモ・ユスリカ成虫・テントウムシ等の不快害虫に優れた効果を発揮します。
- ② 長時間、効力を持続します。
屋外の降雨や、直射日光の当たる条件下で、通常の乳剤タイプに比べて3倍以上の期間効力を持続します。
- ③ 高い安全性
人畜に対して高い安全性を示すピレスロイド系の化合物を使用しています。
- ④ 水性タイプです。
水に対して任意の割合で希釈できます。
引火性がなく、非危険物で消防法の適用外です。

[物 性]

- ① 有効成分 : ピレスロイド系化合物
- ② 外 観 : 乳白色のやや粘調な懸濁液。
- ③ 引 火 性 : 認められず。
- ④ 安 定 性 : 50°、4週間保存で問題なし。

[使 用 方 法]

- ① モルタルおよび木質等の吸収しやすい面の処理
本品を水で2~10倍に希釈して、1m²あたり100~200mL吹きつけ、または塗布による処理を行ってください。
- ② 合成樹脂面や、塗装処理面等の吸収しにくい面の処理
本品を原液または水で2~3倍に希釈して、1m²あたり50~100mL吹きつけ、または塗布による処理を行ってください。

[対 象 害 虫]

- A. 屋外 : ユスリカ成虫、クモ、カメムシ、テントウムシ等の不快害虫。
- B. 屋内 : チャタテムシ、コクヌストモドキ、シバンムシ、コクゾウ、イガ等の不快害虫。

[安 全 性]

- ① 普通物。
- ② (急性経皮毒性 ラット > 5,000mg/kg)

[効力]

・各供試虫に対し、次の設定により試験を行った。

処理面	使用基材	希釈倍数	処理量
吸収面	ベニヤ板	×2倍	200mL/m ²
非吸収面	ガラス板	原液	50mL/m ²
		×5倍	
		×10倍	

・試験方法

接触法により試験を行った。

供試虫：オオチョウバエ成虫

各処理面に本剤の所定量を処理し、室温（約 20～25℃）にて保存し、処理 1 日後、2 ヶ月後供試虫を接触させ、時間経過に伴う致死率を調べた。

試験は 3 回繰り返して行ない、供試虫数は 1 回につき、10 匹（計 30 匹）用いた。（試験日により試験回数及び供試虫数に多少変動あり。）

致死率 (%)							
		プロコートGP ₂			プロコートTP		
		吸収面	非吸収面		吸収面	非吸収面	
経日	時間(分)	×2倍	×5倍	×10倍	×2倍	×5倍	×10倍
1 日後	30	100	93.3	86.7	96.7	83.3	76.7
	60	100	100	93.3	96.7	96.7	96.7
	90	100	100	93.3	100	100	96.7
2 ヶ月後	30	94.1	92.3	44.4	88.2	83.3	80.0
	60	94.1	100	77.8	100	100	100
	90	94.1	100	77.8	100	100	100

[使用上の注意]

- ① 低毒性の薬剤ですが、皮膚に付いたり、誤って目に入った場合は、よく洗ってください。
万一、身体に異常を来した場合は、直ちに医師の診療を受けてください。
- ② 魚が生息する池や河川に流入しないように注意してください。
- ③ 窓ガラス等、不必要な部分に本品が付着した場合は、時間が経つと取れにくくなりますので、速やかに濡れ雑巾などで拭き取ってください。
万一、日数が経った場合は、お湯や蒸し雑巾などで表面をふやかし、タワシやコテ等を用いて取り除いて下さい。
- ④ 散布する前に処理面のホコリや汚れを除去して下さい。
- ⑤ 処理面が白壁等の場合、濃い薬液での散布は日光等により変色する恐れがありますので、5～10倍液にて御使用ください。
- ⑥ 万一、変色した場合は、中性洗剤により十分に洗浄し、布又はタワシ等でこすって下さい。
お湯を用いれば一層洗浄効果があがります。
- ⑦ 吹き付け、又は、塗布処理に用いた器具類は、使用后直ちに水洗いするか、氷に漬けておいてください。
- ⑧ 本品は凍結により分離する恐れがありますので、冬期保存の際には御注意ください。
- ⑨ 本品を塗布後、一度乾燥させた処理面は、降雨等によりやや白濁することがありますが、流失することはありません。